

GA-880GM-D2H

ユーザーズ マニュアル

改版 4001

12MJ-880GD2H-4001R

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer
G.B.T. Technology Trading GmbH
Bullenkopf 16, 22047 Hamburg, Germany
declare that the product
GA-880GM-D2H
(description of the apparatus, system, installation to which it refers)
(reference to the specification under which conformity is declared)
is in conformity with
in accordance with 2004/108/EC EMC Directive

☐ EN 55011	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of radio transmitting apparatus and high frequency equipment	☒ EN 61000-3-2	Disturbances in supply systems caused by household appliances and similar electrical equipment "Voltage fluctuations"
☐ EN 55013	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment	☒ EN 55024	Information Technology equipment-Immunity characteristics-Limits and methods of measurement
☐ EN 55014-1	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household appliances and similar portable tools and similar electrical apparatus	☐ EN 50082-1	Generic immunity standard Part 1: Residential, commercial and light industry
		☐ EN 50082-2	Generic immunity standard Part 2: Industrial environment
☐ EN 55015	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaires	☐ EN 55014-2	Immunity requirements for household appliances tools and similar apparatus
☐ EN 55020	Immunity from radio interference of broadcast receivers and associated equipment	☐ EN 50091-2	EMC requirements for uninterruptible power systems (UPS)
☒ EN 55022	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment		
☐ DIN VDE 0855 part 10	Cabled distribution systems; Equipment for receiving and/or distribution from corded and television signals		
☐ CE marking			(CE conformity marking)

The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product with the actual required safety standards in accordance with LVD 2006/95/EC

☐ EN 60065	Safety requirements for mains operated electronic and radio apparatus for household and similar general use	☒ EN 60950	Safety for information technology equipment including electrical business equipment
☐ EN 60335	Safety of household and similar electrical appliances	☐ EN 50081-1	General and Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS)

Manufacturer/Importer
Signature : Timmy Huang
Name : Timmy Huang
Date : Sept. 9, 2011
(Stamp)

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name:G.B.T. INC. (U.S.A.)
Address: 17388 Railroad Street
City of Industry, CA 91748
Phone/Fax No:(818) 854-9336/ (818) 854-9339
Product Name: Motherboard
Model Number: GA-880GM-D2H

hereby declares that the product

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109

(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any inference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Sept. 9, 2011

著作権

© 2011 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版權所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

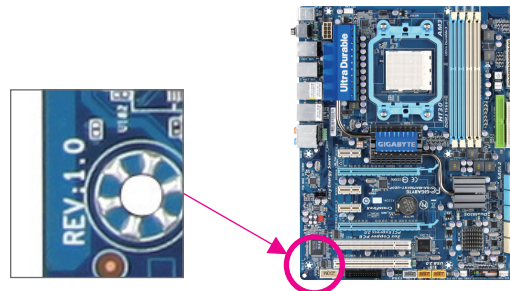
このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

- 本製品を最大限に活用できるように、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。
- 製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：
<http://www.gigabyte.com>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

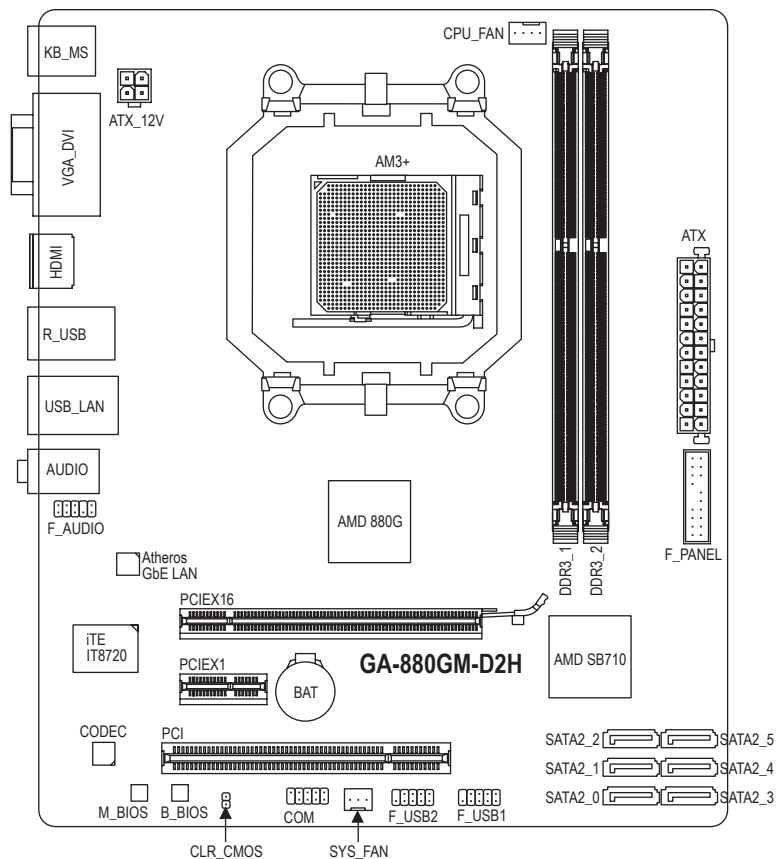
例：



目次

GA-880GM-D2H マザーボードのレイアウト	5
GA-880GM-D2H マザーボードのブロック図	6
第 1 章 ハードウェアの取り付け	7
1-1 取り付け手順	7
1-2 製品の仕様	8
1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け	10
1-4 メモリの取り付け	11
1-5 拡張カードの取り付け	11
1-6 背面パネルのコネクタ	12
1-7 内部コネクタ	14
第 2 章 BIOS セットアップ	21
2-1 起動スクリーン	21
2-2 メインメニュー	22
2-3 MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)	23
2-4 Standard CMOS Features	27
2-5 Advanced BIOS Features	28
2-6 Integrated Peripherals	30
2-7 Power Management Setup	32
2-8 PnP/PCI Configurations	34
2-9 PC Health Status	34
2-10 Load Fail-Safe Defaults	35
2-11 Load Optimized Defaults	36
2-12 Set Supervisor/User Password	36
2-13 Save & Exit Setup	37
2-14 Exit Without Saving	37
第 3 章 ドライバのインストール	38
第 4 章 固有の機能	38
SATAハードドライブを構成する	38
規制声明	41

GA-880GM-D2H マザーボードのレイアウト

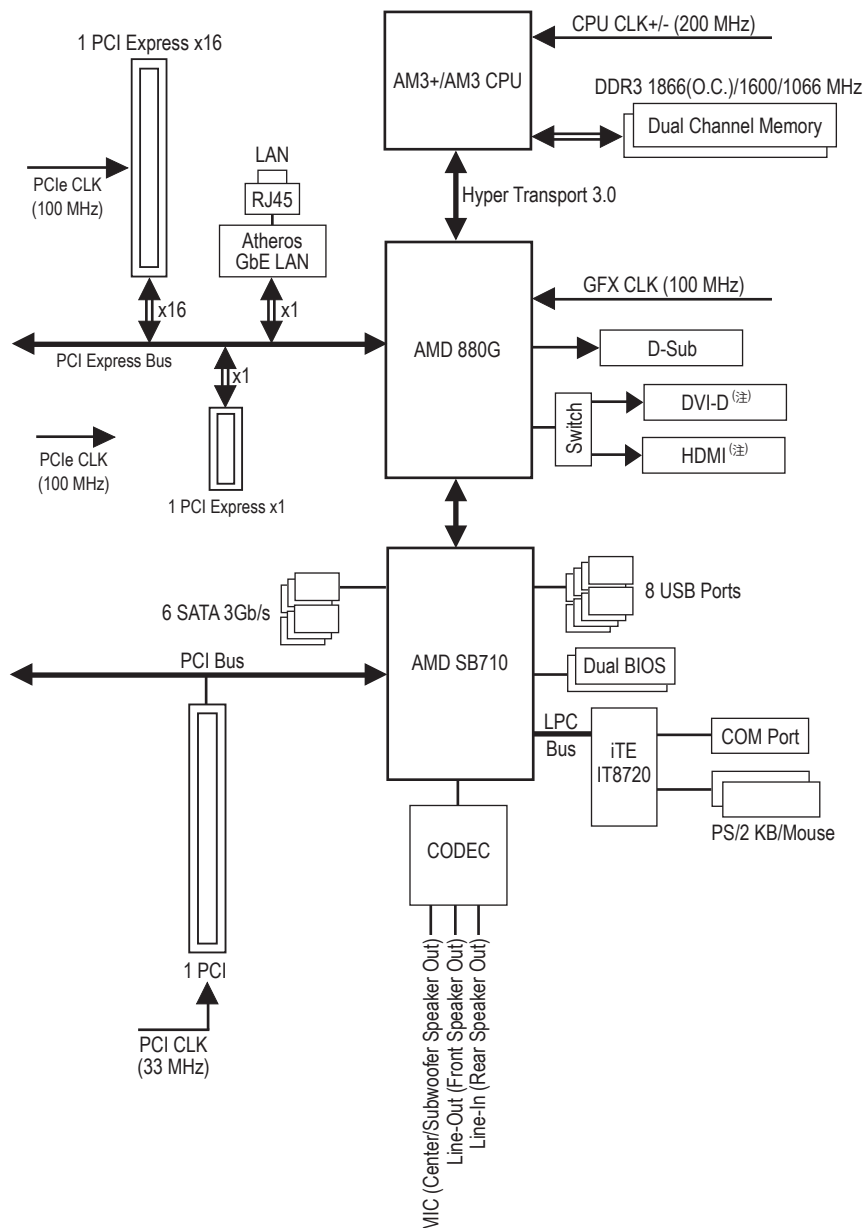


ボックスの内容

- ☒ GA-880GM-D2H マザーボード
- ☒ マザーボードドライバディスク
- ☒ ユーザーズマニュアル
- ☒ 2本のSATAケーブル
- ☒ I/O シールド

* 上記のボックスの内容は参照専用であり、実際のアイテムはお求めになった製品パッケージにより異なります。

GA-880GM-D2H マザーボードのブロック図



(注) BIOSセットアッププログラムまたはPOST画面に入っている間、出力に使用できるオンボードデジタルグラフィックスポート (HDMI、およびDVI-Dなど) は1つだけです。

第 1 章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電 (ESD) の結果損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズ マニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付ける前に、マザーボードの S/N (シリアル番号) ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて AC 電力を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電 (ESD) リストストラップを着用することをお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まずは金属物体に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置か、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、けがにつながる恐れがあります。
- 取り付けステップについて不明確な場合や、製品の使用に関して疑問な点がございましたら、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

	CPU	- AM3+ソケット: - AMD AM3+プロセッサ - AM3 AMD Phenom™ IIプロセッサ/AMD Athlon™ IIプロセッサ (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
	ハイパートランスポートバス	5200 MT/s
	チップセット	- ノースブリッジ: AMD 880G - サウスブリッジ: AMD SB710
	メモリ	- 最大 8 GB のシステムメモリをサポートする 1.5V DDR3 DIMM ソケット (x2) - Windows 32ビットオペレーティングシステムの制限により、4 GB以上の物理メモリが取り付けられるとき、表示される実際のメモリサイズは4 GBより少なくなります。 - デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ - DDR3 1866(O.C.)/1600/1066 MHz メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)
	オンボードグラフィックス	- ノースブリッジに統合: - D-Sub ポート (x1) - DVI-Dポート (x1)、2560x1600の最大解像度をサポートします。 - DVI-Dポートは、アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません。 - HDMIポート (x1)、1920x1200の最大解像度をサポートします。 - DVI-DとHDMIの同時出力はサポートされていません。
	オーディオ	- Realtek/VIA HDオーディオコーデック - ハイディフィニションオーディオ 2/4/5.1/7.1 チャンネル 7.1チャンネルオーディオを有効にするには、HDフロントパネルオーディオモジュールを使用して、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。
	LAN	Atheros GbE LAN チップ (x1) (10/100/1000 Mbit)
	拡張スロット	- PCI Express x16 スロット、PCIEX16 で動作 (x1) - PCI Express x1スロット (x1) (すべてのPCI ExpressスロットはPCI Express 2.0規格に準拠しています。) - PCI スロット (x1)
	ストレージインターフェイス	- サウスブリッジ: - 最大6つのSATA 3Gb/sデバイスをサポートする6 x SATA 3Gb/s コネクタ - SATA RAID 0、RAID 1、RAID 10、および JBOD をサポート
	USB	- サウスブリッジ: - 最大 8 つの USB 2.0/1.1 ポート (背面パネルに4つ、内部 USB ヘッダに接続された USB ブラケットを介して4つ)
	内部コネクタ	24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) - SATA 3Gb/s コネクタ (x6) - CPU ファンヘッダ (x1) - システムファンヘッダ (x1) - 前面パネルヘッダ (x1)

 内部コネクタ	◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ クリアリング CMOS ジャンパ (x1)
 背面パネルの コネクタ	◆ PS/2キーボード (x1) ◆ PS/2マウスポート (x1) ◆ D-Sub ポート (x1) ◆ DVI-D ポート (x1) ◆ HDMI ポート (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x4) ◆ RJ-45 ポート (x1) ◆ オーディオジャック (x3) (ラインイン/ラインアウト/マイク)
 I/O コントローラ	◆ iTE IT8720 チップ
 ハードウェア モニタ	◆ システム電圧の検出 ◆ CPU / システム温度の検出 ◆ CPU / システムファン速度の検出 ◆ CPU 過熱警告 ◆ CPU / システムファンの異常警告 ◆ CPUファン速度コントロール * CPUファン速度コントロール機能がサポートについては、取り付けたCPUクーラーによって異なります。
 BIOS	◆ 16 Mbit フラッシュ (x2) ◆ 正規ライセンス版AWARD BIOSを搭載 ◆ DualBIOS™のサポート ◆ PnP 1.0a, DMI 2.0, SM BIOS 2.4, ACPI 1.0b
 固有の機能	◆ @BIOS のサポート ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress BIOS Rescue のサポート ◆ ダウンロードセンターのサポート ◆ Xpress Install のサポート ◆ Xpress Recovery2 のサポート ◆ EasyTune のサポート *EasyTuneで利用可能な機能は、マザーボードモデルによって異なります。 ◆ Smart Recovery のサポート ◆ Auto Green のサポート ◆ ON/OFF Charge のサポート ◆ Cloud OC のサポート ◆ Q-Share のサポート

	バンドルされたソフトウェア	◆ Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン)
	オペレーティングシステム	◆ Microsoft® Windows 7/Vista/XP のサポート
	フォームファクタ	◆ Micro ATX フォームファクタ、24.4cm x 20.6cm

* GIGABYTEは、事前の通知なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する権利を保有します。

1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け

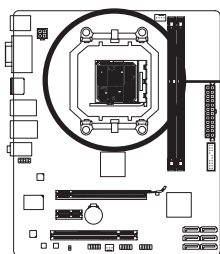


CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードが CPU をサポートしていることを確認してください。
(最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPU のピン 1 を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。
- CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- CPU クーラーを取り付けないうちは、コンピュータの電源をオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- CPU の仕様に従って、CPU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

CPU を取り付ける

A. CPU ソケットのピン 1 (小さな三角形で表示) と CPU を確認します。



小さな三角形のマークは、ソケットのピン 1 を示します



AM3+ ソケット

小さな三角形のマークは CPU ピン 1 を示します



AM3+/AM3 CPU

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えないようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

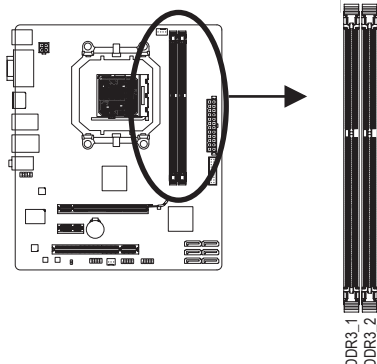
デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには2つのDDR3メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードを有効にすると、元のメモリバンド幅が2倍になります。

2つのDDR3メモリソケットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように1つのメモリソケットがあります：

▶ チャンネル 0: DDR3_1

▶ チャンネル 1: DDR3_2



デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

- DDR3メモリモジュールが1つしか取り付けられていない場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2つまでのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているとき、最適のパフォーマンスを発揮するために同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用するようにお勧めします。

1-5 拡張カードの取り付け



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードが拡張カードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

1-6 背面パネルのコネクタ



① PS/2キーボードおよびPS/2マウスポート

上部ポート(緑)を使ってPS/2マウスを接続し、下部ポート(紫)を使ってPS/2キーボードを接続します。

② D-Sub ポート

D-Subポートは、15ピンD-Subコネクタに対応しています。D-Sub接続をサポートするモニターをこのポートに接続してください。

③ DVI-D ポート (注1)(注2)

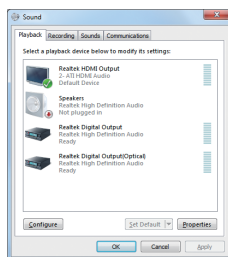
DVI-DポートはDVI-D仕様に準拠しており、2560x1600の最大解像度をサポートします。DVI-D接続をサポートするモニターをこのポートに接続してください。サポートされる実際の解像度は使用されるモニターによって異なります。また、2560x1600の解像度はデュアルリンクDVIが有効になっている場合のみサポートされます。D-Sub、およびHDMIポートはデュアルリンクDVIモードが有効になっている場合、無効にされます(詳細については、第2章「BIOSセットアップ」、「Advanced BIOS Features」、「IGX Configuration」を参照してください)。

④ HDMI ポート (注2)

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、非圧縮音声/動画信号の伝送が可能な全デジタルオーディオ/ビデオインターフェイスです。HDMIポートはHDCPに対応し、ドルビーTrueHDおよびDTS HDマスターオーディオ形式をサポートしています。最大192KHz/24ビットの8チャンネルLPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニターに接続します。サポートする最大解像度は1920 x 1200ですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



HDMI機器を設置後、必ずデフォルトの音声再生機器をHDMIに設定してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。以下のスクリーンショットはWindows 7のものです。)



Windows 7で、スタート>コントロールパネル>ハードウェアとサウンド>自動再生の順に選択し、**Realtek HDMI Output - ATI HDMI Audio**をデフォルトの再生デバイスに設定します。



- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外す際は、まずデバイスからケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際は、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

(注1) DVI-Dポートは、アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません。

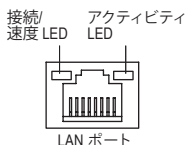
(注2) DVI-DとHDMIの同時出力はサポートされていません。

⑨ USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートし、USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用してください。

⑩ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を説明しています。



接続/速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません

⑪ ラインインジャック (青)

既定値のラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

⑫ ラインアウトジャック (緑)

既定値のラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックを使用して、4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定の前面スピーカーを接続します。

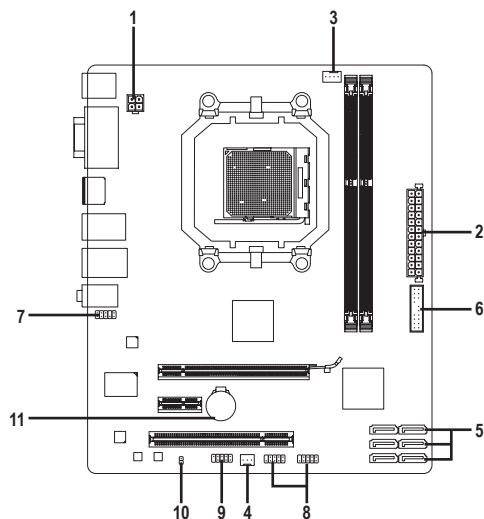
⑬ マイクインジャック (ピンク)

既定値のマイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。



7.1 チャンネルオーディオを有効にするには、HD フロントパネルオーディオモジュールを使用して、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。

1-7 内部コネクタ



1) ATX_12V	7) F_AUDIO
2) ATX	8) F_USB1/F_USB2
3) CPU_FAN	9) COM
4) SYS_FAN	10) CLR_CMOS
5) SATA2_0/1/2/3/4/5	11) BAT
6) F_PANEL	



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください:

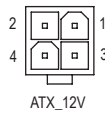
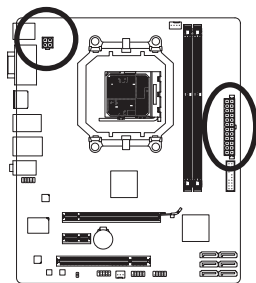
- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータの電源がオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスをインストールした後、コンピュータの電源をオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかり接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V/ATX (2x2 12V 電源コネクタと 2x12 メインの電源コネクタ)

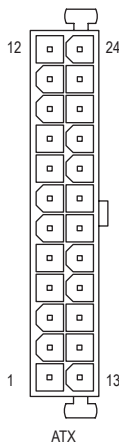
電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、絶対に確実な設計が施されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。



拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします (500W 以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



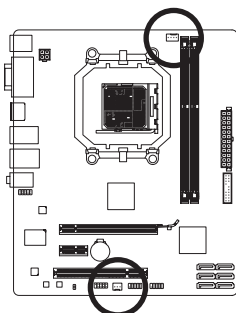
ATX_12V:	
ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V



ATX:			
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフトオン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	-5V
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN (ファンヘッダ)

マザーボードには、4ピンCPUファンヘッダ (CPU_FAN) と3ピンシステムファンヘッダ (SYS_FAN) が搭載されています。ほとんどのファンヘッダはきわめて簡単な挿入設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向で接続していることを確認してください (黒いコネクタはアース用線です)。マザーボードは CPU ファン速度制御をサポートし、ファン速度制御設計を搭載した CPU ファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、シャーシ内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN



SYS_FAN

CPU_FAN:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知
4	速度制御

SYS_FAN:

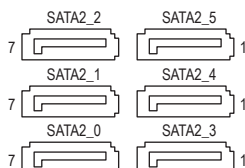
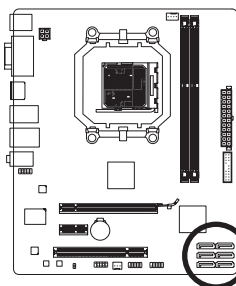
ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。過熱はCPUブリッジが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップを取り付けしないでください。

5) SATA2_0/1/2/3/4/5 (SATA 3Gb/sコネクタ、AMD SB710 制御サウスブリッジ)

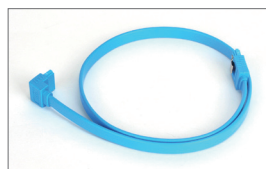
SATA コネクタは SATA 3Gb/s 標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。AMD SB710コントローラはRAID 0、RAID 1、RAID 10およびJBODをサポートします。RAID アレイの設定の使用説明については、第 5 章「SATA ハードドライブの設定」をお読みください。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND



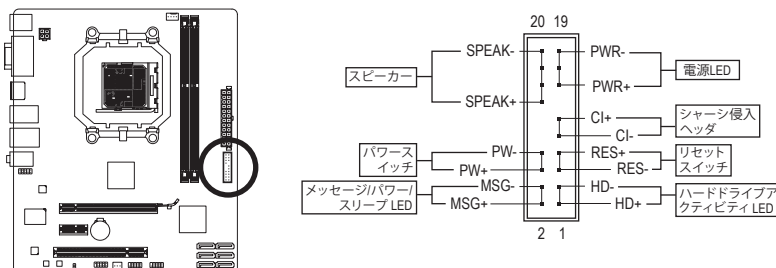
- RAID 0またはRAID 1 構成には、ハードドライブが2台以上必要となります。ハードドライブ2台以上を使う場合には、ハードドライブの総数を偶数にする必要があります。
- RAID 10 構成には、4つのハードドライブが必要です。



SATA 秒ケーブルのL字型端を SATAハードドライブに接続してください。

6) F. PANEL (前面パネルヘッダ)

電源スイッチを接続し、以下のピン割り当てに従ってシャーシのスイッチ、スピーカー、シャーシ侵入スイッチ/センサーおよびシステムステータスインジケータをこのヘッダにリセットします。ケーブルを接続する前に、+と-のピンに注意してください。



- **MSG/PWR (メッセージ/パワー/スリープ LED、黄/紫):**

システムステータス	LED
S0	オン
S1	点滅
S3/S4/S5	オフ

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S1 スリープ状態に入ると、LED は点滅を続けます。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。

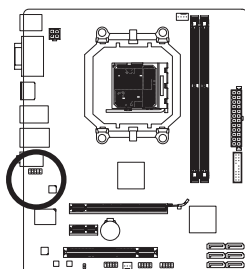
- **PW (パワースイッチ、赤):**
シャーシ前面パネルのパワースイッチに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます (詳細については、第 2 章「BIOS セットアップ」、「電源管理のセットアップ」を参照してください)。
- **SPEAK (スピーカー、オレンジ):**
シャーシ前面パネルのスピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が 1 度鳴ります。問題を検出すると、BIOS は異なるパターンのビープ音を鳴らして問題を示します。
- **HD (ハードドライブアクティビティ LED、青):**
シャーシ前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LED はオンになります。
- **RES (リセットスイッチ、緑):**
シャーシ前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。
- **CI (シャーシ侵入ヘッダ、グレイ):**
シャーシカバーが取り外されている場合、シャーシの検出可能なシャーシ侵入スイッチ/センサーに接続します。この機能は、シャーシ侵入スイッチ/センサーを搭載したシャーシを必要とします。



前面パネルのデザインは、シャーシによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。シャーシ前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

7) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。シャーシ前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することもあります。



HD 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	LINE2_R
6	GND
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	GND

AC'97 前面パネルオーディオの場合:

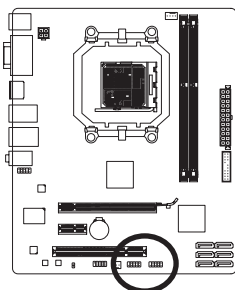
ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC パワー
4	NC
5	ラインアウト (右)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ラインアウト (左)
10	NC



- 前面パネルのオーディオヘッダは、既定値で HD オーディオをサポートしています。
- オーディオ信号が、前面パネルおよび背面パネルのオーディオ接続の両側に同時に流れます。
- シャーシの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一プラグの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、シャーシメーカーにお問い合わせください。

8) F_USB1/F_USB2 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合は、最寄りの販売店にお問い合わせください。



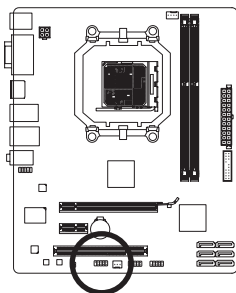
ピン番号	定義
1	電源 (5V)
2	電源 (5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、必ずコンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜いてください。

9) COM (シリアルポートコネクタ)

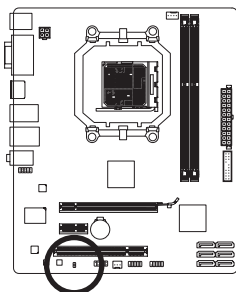
COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、最寄りの販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	ND CD -
2	NS IN
3	NS OUT
4	ND TR -
5	GND
6	ND SR -
7	NR TS -
8	NCT S -
9	NR I -
10	ピンなし

10) CLR_CMOS (クリア CMOS ジャンパ)

このジャンパを使用して CMOS 値 (例えば、日付情報や BIOS 設定) を消去し、CMOS を工場出荷時の設定にリセットします。CMOS 値を消去するには、ジャンパキャップを 2 つのピンにかぶせて 2 つのピンを一時ショートさせるか、ドライバーのような金属物体を使用して数秒間 2 つのピンに触れてください。



オープン: ノーマル



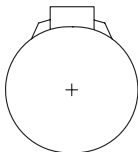
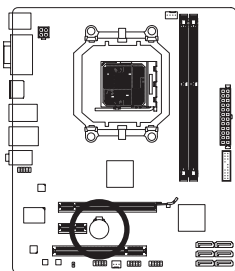
ショート: CMOS 値の消去



- CMOS 値を消去する前に、必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CMOS 値を消去した後コンピュータの電源をオンにする前に、必ずジャンパからジャンパキャップを取り外してください。取り外さないと、マザーボードが損傷する原因となります。
- システムが再起動した後、BIOS セットアップに移動して工場出荷時の設定をロードするか (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

11) BAT(バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったらバッテリーを交換してください。そうしないと、CMOS 値が正確に表示されなかったり失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS 値を消去できます。

1. コンピュータのパワーをオフにし、パワーコードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1分待ちます。
(または、ドライバーのような金属製品を使用してバッテリーホルダの正および負の端子に触れ、5 秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、爆発する恐れがあります。
- バッテリーを自分自身で交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合は、購入店または地域代理店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みバッテリーは、地域の環境規制に従って処理する必要があります。

第2章 BIOS セットアップ

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、パワーがオンになっているとき POST 中に <Delete> キーを押します。詳細な BIOS セットアップメニューオプションを表示するには、BIOS セットアッププログラムのメインメニューで <Ctrl> + <F1> を押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユティリティを使用します。

- Q-Flash で、オペレーティングシステムに入らずに、BIOS を素早く簡単にアップグレードまたはバックアップできます。
- @BIOS は Windows ベースのユーティリティで、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索してダウンロードしたり、BIOS を更新したりします。

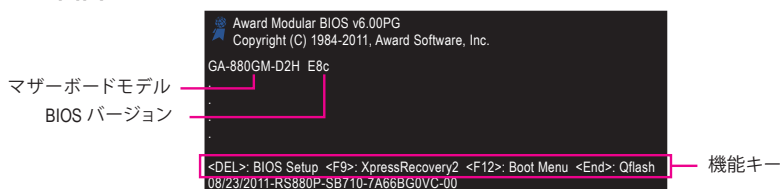


- BIOS フラッシュは潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS をフラッシュしないことをお勧めします。BIOS をフラッシュするには、注意して行ってください。BIOS の不適切なフラッシュは、システムの誤動作の原因となります。
- システムが不安定になったりその他の予期せぬ結果を引き起こすことがあるため、(必要でない場合) 既定値の設定を変更しないことをお勧めします。設定を不完全に変更すると、システムは起動できません。その場合、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「ロード最適化 既定値」セクションまたは第1章のバッテリー/CMOS ジャンパ/ボタンの消去の概要を参照してください。)

2-1 起動スクリーン

コンピュータが起動するとき、次の画面が表示されます。

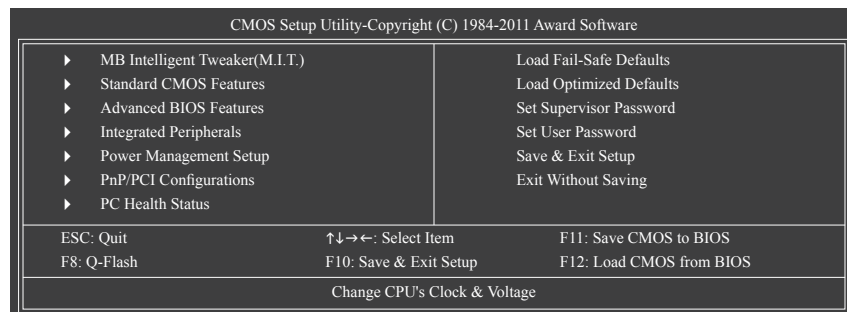
POST画面



2-2 メインメニュー

BIOS セットアッププログラムに入ると、(以下に表示されたように) メインメニューがスクリーンに表示されます。矢印キーでアイテム間を移動し、<Enter> を押してコマンドを実行するか、サブメニューに入ります。

(サンプルの BIOS バージョン: E8c)



- メインメニューまたはサブメニューに目的の設定が見つからない場合、<Ctrl>+<F1>を押して詳細オプションにアクセスします。
- システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** アイテムを選択してシステムをその既定値に設定します。
- この章で説明した BIOS セットアップメニューは、BIOS のバージョンによって異なる場合があります。

■ <F11> および <F12> キーの機能 (メインメニューの場合のみ)

▶ F11 : Save CMOS to BIOS

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できます。最大 8 つのプロファイル (プロファイル 1-8) を作成し、各プロファイルに名前を付けることができます。まず、プロファイル名を入力し (既定値のプロファイル名を消去するには、SPACE キーを使用します)、次に <Enter> を押して完了します。

▶ F12 : Load CMOS from BIOS

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定を設定し直す煩わしさを避けることができます。まず、ロードするプロファイルを選択し、次に <Enter> を押して完了します。

2-3 MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)			
▶ IGX Configuration	[Press Enter]		Item Help
CPU Clock Ratio	[Auto]	2800Mhz	Menu Level ▶
CPU NorthBridge Freq.	[Auto]	2000Mhz	
Core Performance Boost ^(注)	[Enabled]		
CPB Ratio ^(注)	[Auto]	3100Mhz	
Turbo CPB ^(注)	[Disabled]		
CPU Host Clock Control	[Auto]		
x CPU Frequency(MHz)		200	
PCIE Clock(MHz)	[Auto]		
HT Link Width	[Auto]		
HT Link Frequency	[Auto]	2000Mhz	
Set Memory Clock	[Auto]		
x Memory Clock		x6.66 1333Mhz	
▶ DRAM Configuration	[Press Enter]		
***** System Voltage Optimized *****			
System Voltage Control	[Auto]		
x DDR3 Voltage control	Auto		
x NorthBridge Volt Control	Auto		
x SouthBridge Volt Control	Auto		
x CPU NB VID Control	Auto		
x CPU Voltage Control	Auto		
Normal CPU Vcore	1.2750V		
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults			



- ・システムがオーバークロック/過電圧設定で安定して作動しているかどうかは、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック/過電圧を間違えて実行すると CPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(設定を不完全に変更すると、システムは起動できません。その場合、CMOS 値を消去しボードを既定値にリセットしてください)。
- ・ **System Voltage Optimized** 項目が赤で点滅するとき、**System Voltage Control** 項目を **Auto** に設定してシステム電圧設定を最適化することをお勧めします。

IGX Configuration

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software IGX Configuration			
Internal Graphics Mode	[UMA]		Item Help
UMA Frame Buffer Size	[Auto]		Menu Level ▶▶
x Surround View	Disabled		
VGA Core Clock control	[Auto]		
x VGA Core Clock(MHz)		560	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults			

Internal Graphics Mode

オンボードグラフィックスコントローラに対してシステムメモリを割り当てるかどうかを決定します。

- ▶ Disabled オンボードグラフィックスコントローラを無効にします。
- ▶ UMA システムメモリからオンボードグラフィックスコントローラに対してメモリを割り当てます。(既定値)

UMA Frame Buffer Size

フレームバッファサイズは、オンボードグラフィックスコントローラに対してのみ割り当てられたシステムメモリの合計量です。例えば、MS-DOSはディスプレイに対してこのメモリのみを使用します。オプション: Auto (既定値)、128MB、256MB、512MB。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

- 🔍 **Surround View**
 Surround View機能の有効/無効を切り替えます。**Advanced BIOS Features**の有効/無効を切り替えます。ATIグラフィックスカードが取り付けられているおよび **Init Display First**がPEGに設定されている場合のみ、このオプションを構成できます。(既定値: Disabled)
- 🔍 **VGA Core Clock control**
 VGA Coreクロックを手動で設定するかどうかを決定します。(既定値: Auto)
- 🔍 **VGA Core Clock (MHz)**
 VGA Core クロックを手動で設定します。調整可能な範囲は 200 MHz～2000 MHz の間です。**VGA Core Clock control** オプションが**Manual**に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。
- 🔍 **CPU Clock Ratio**
 取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、使用される CPU によって異なります。
- 🔍 **CPU NorthBridge Freq.**
 取り付けた CPU のノースブリッジコントローラ周波数を変更します。調整可能範囲は、使用される CPU によって異なります。
- 🔍 **Core Performance Boost^(注)**
 コアパフォーマンスブースト (CPB)技術、CPUパフォーマンスブースト技術を有効にするかどうかを決定します。(既定値: Enabled)
- 🔍 **CPB Ratio^(注)**
 CPBの速度を変更します。調整可能範囲は、取り付けのCPUによって異なります。
 (既定値: Auto)
- 🔍 **Turbo CPB^(注)**
 CPUパフォーマンスを向上するかどうかを決定します。(既定値: Disabled)
- 🔍 **CPU Host Clock Control**
 CPU ホストクロックの制御の有効/無効を切り替えます。**Auto** (既定値) では、BIOS が CPU ホスト周波数を自動的に調整します。**Manual** にすると、以下の **CPU Frequency (MHz)** 項目を構成できるようになります。注:オーバークロックの後システムが起動に失敗した場合、20 秒待つてシステムを自動的に再起動するか、または CMOS 値を消去してボードを既定値にリセットします。
- 🔍 **CPU Frequency (MHz)**
 CPU ホスト周波数を手動で設定します。調整可能な範囲は 200 MHz～500 MHz の間です。**重要** CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。
- 🔍 **PCIe Clock (MHz)**
 PCIe クロック周波数を手動で設定します。調整可能な範囲は 100 MHz～150 MHz の間です。**Auto** は PCIe クロック周波数を標準の 100 MHz に設定します。(既定値: Auto)
- 🔍 **HT Link Width**
 CPU とチップセット間で HT Link 用の幅を手動で設定します。

 - ▶ **Auto** BIOS は、HT リンク幅を自動的に調整します。(既定値)
 - ▶ **8 bit** HT リンク幅を 8 ビットに設定します。
 - ▶ **16 bit** HT リンク幅を 16 ビットに設定します。
- 🔍 **HT Link Frequency**
 CPU とチップセット間で HT Link 用の周波数を手動で設定します。

 - ▶ **Auto** BIOS は、HT Link Frequency を自動的に調整します。(既定値)
 - ▶ **x1~x10** HTリンク周波数をX1~X10 (200 MHz~2.0 GHz)に設定します。
- 🔍 **Set Memory Clock**
 メモリクロックを手動で設定するかどうかを決定します。**Auto** では、BIOS は必要に応じてメモリクロックを自動的に設定します。**Manual** にすると、以下のメモリクロックコントロール項目をすべて構成できます。(既定値: Auto)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

Set Memory Clock が **Manual** に設定されているときのみ、このオプションを構成できます。

- ▶▶ X4.00 Memory Clock を X4.00 に設定します。
- ▶▶ X5.33 Memory Clock を X5.33 に設定します。
- ▶▶ X6.66 Memory Clock を X6.66 に設定します。
- ▶▶ X8.00 Memory Clock を X8.00 に設定します。

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software			
DRAM Configuration			
DCTs Mode	[Unganged]		
DDR3 Timing Items	[Auto]	SPD	Auto
x 1T/2T Command Timing	Auto	--	--
x CAS# latency	Auto	9T	9T
x RAS to CAS R/W Delay	Auto	9T	9T
x Row Precharge Time	Auto	9T	9T
x Minimum RAS Active Time	Auto	24T	24T
x TwTr Command Delay	Auto	5T	5T
x Trfc0 for DIMM1	Auto	110ns	110ns
x Trfc1 for DIMM2	Auto	--	--
x Write Recovery Time	Auto	10T	10T
x Precharge Time	Auto	5T	5T
x Row Cycle Time	Auto	33T	33T
x RAS to RAS Delay	Auto	4T	4T
Channel Interleaving	[Enabled]		
Bank Interleaving	[Enabled]		
DQS Training Control	[Skip DQS]		
Memclock tri-stating	[Disabled]		
↑↓←→: Move Enter: Select F5: Previous Values		+/-/PU/PD: Value F10: Save F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults	

メモリコントロールモードを設定します。

- ▶ Ganged メモリコントロールモードを単一のデュアルチャンネルに設定します。
▶ Unganged メモリコントロールモードを2つの単一チャンネルに設定します。
(既定値)

Manual にすると、以下の DDR3 タイミング項目をすべて構成できます。

オプション: Auto (既定値)、手動。

オプション: Auto (既定値)、1T、2T。

オプション: Auto (既定値)、4T~12T。

オプション: Auto (既定値)、5T~12T。

オプション: Auto (既定値)、5T~12T。

オプション: Auto (既定値)、15T~30T。

オプション: Auto (既定値)、4T~7T。

オプション: Auto (既定値)、90ns、110ns、160ns、300ns、350ns。

- ☞ **Trfc1 for DIMM2**
オプション: Auto (既定値)、90ns、110ns、160ns、300ns、350ns。
- ☞ **Write Recovery Time**
オプション: Auto (既定値)、5T~8T、10T、12T。
- ☞ **Precharge Time**
オプション: Auto (既定値)、4T~7T。
- ☞ **Row Cycle Time**
オプション: Auto (既定値)、11T~42T。
- ☞ **RAS to RAS Delay**
オプション: Auto (既定値)、4T~7T。
- ☞ **Channel interleave**
メモリチャンネルのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** 化すると、システムはメモリのさまざまなチャンネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。(既定値: Enabled)
- ☞ **Bank Interleaving**
メモリバンクのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** 化すると、システムはメモリのさまざまなバンクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。(既定値: Enabled)
- ☞ **DQS Training Control**
システムが再起動する度に、メモリDQストレージングの有効/無効を切り替えます。(既定値: DQSのスキップ)
- ☞ **Memclock tri-stating**
CPU C3またはAlt VIDモードでメモリクロックtri-statingを有効にするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

***** System Voltage Optimized *****

- ☞ **System Voltage Control**
システム電圧を手動で設定するかどうかを決定します。**Auto** では、BIOS は必要に応じてシステム電圧を自動的に設定します。**Manual** にすると、以下の電圧コントロール項目をすべて構成できます。(既定値: Auto)
- ☞ **DDR3 Voltage Control**
メモリ電圧を設定します。
 - ▶ Normal 必要に応じて、メモリ電圧を供給します。(既定値)
 - ▶ +0.100V ~ +0.300V 調整可能な範囲は 0.100V ~ 0.300V の間です。
 - 注:メモリ電圧を上げると、メモリが損傷する可能性があります。
- ☞ **NorthBridge Volt Control**
ノースブリッジ電圧を設定します。
 - ▶ Normal 必要に応じて、ノースブリッジ電圧を供給します。(既定値)
 - ▶ +0.1V ~ +0.3V 調整可能な範囲は 0.1V ~ 0.3V の間です。
- ☞ **SouthBridge Volt Control**
サウスブリッジ電圧を設定します。
 - ▶ Normal 必要に応じて、サウスブリッジ電圧を供給します。(既定値)
 - ▶ +0.1V ~ +0.2V 調整可能な範囲は 0.1V ~ 0.2V の間です。
- ☞ **CPU NB VID Control**
CPU ノースブリッジ VID 電圧を設定します。**Auto**は、必要に応じてCPUノースブリッジVID電圧を設定します。調整可能範囲は、取り付けのCPUによって異なります。(既定値: Normal)
注: CPU 電圧電圧を上げると、CPU が損傷したり、CPU の耐用年数が減少する原因となります。

☞ CPU Voltage Control

CPU 電圧を設定します。**Auto**は、必要に応じてCPU電圧を設定します。調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。(既定値: Normal)

注: CPU 電圧を上げると、CPU が損傷したり、CPU の耐用年数が減少する原因となります。

☞ Normal CPU Vcore

CPU のノーマルの動作電圧を表示します。

2-4 Standard CMOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software		
Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy)	Tue, Aug 23 2011	Item Help
Time (hh:mm:ss)	22:31:24	Menu Level ▶
▶ IDE Channel 0 Master	[None]	
▶ IDE Channel 0 Slave	[None]	
▶ IDE Channel 1 Master	[None]	
▶ IDE Channel 1 Slave	[None]	
▶ IDE Channel 2 Master	[None]	
▶ IDE Channel 2 Slave	[None]	
Halt On	[All, But Keyboard]	
Base Memory	640K	
Extended Memory	766M	
↑↓←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help		
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

☞ Date (mm:dd:yy)

システムの日付を設定します。

☞ Time (hh:mm:ss)

システムの時刻を設定します。

☞ IDE Channel 0, 1 Master/Slave

▶▶ IDE Channel 0, 1 Master/Slave

以下の3つの方法のうちどれか1つをつかって、SATAデバイスを構成します:

- None SATA デバイスが使用されていない場合、このアイテムを **None** に設定すると、システムは POST 中にデバイスの検出をスキップしてシステムの起動を高速化します。
- Auto POST 中に、BIOS により SATA デバイスが自動的に検出されます。(既定値)
- Manual ハードドライブのアクセスモードが **CHS** に設定されている場合、ハードドライブの仕様を手動で入力することができます。
- ▶▶ Access Mode ハードドライブのアクセスモードを設定します。オプションは: Auto (既定値)、CHS、LBA、Large です。

☞ IDE Channel 2 Master/Slave

▶▶ Extended IDE Drive

以下の2つの方法のうちどれか1つをつかって、SATAデバイスを構成します:

- Auto POST 中に、BIOS により SATA デバイスが自動的に検出されます。(既定値)
- None SATA デバイスが使用されていない場合、このアイテムを **None** に設定すると、システムは POST 中にデバイスの検出をスキップしてシステムの起動を高速化します。
- ▶▶ Access Mode ハードドライブのアクセスモードを設定します。オプションは: Auto (既定値)、Large。

以下のフィールドには、お使いのハードドライブの仕様が表示されます。パラメータを手動で入力する場合、ハードドライブの情報を参照してください。

▶ Capacity 現在取り付けられているハードドライブのおおよその容量。

☞ Halt On

システムが POST 中にエラーに対して停止するかどうかを決定します。

オプション: 「All Errors,」「No Errors,」「All, But Keyboard」。 (既定値)

☞ Memory

これらのフィールドは読み込み専用で、BIOS POST で決定されます。

2-5 Advanced BIOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software		
Advanced BIOS Features		
▶ IGX Configuration	[Press Enter]	Item Help
AMD C1E Support	[Auto]	Menu Level ▶
Virtualization	[Disabled]	
AMD K8 Cool&Quiet control	[Auto]	
CPU Unlock ^(Note)	[Disabled]	
CPU core Control	[Auto]	
x CPU core 0	Enabled	
x CPU core 1	Enabled	
x CPU core 2 ^(注)	Enabled	
x CPU core 3 ^(注)	Enabled	
x CPU core 4 ^(注)	Enabled	
x CPU core 5 ^(注)	Enabled	
▶ Hard Disk Boot Priority	[Press Enter]	
EFI CD/DVD Boot Option	[Auto]	
First Boot Device	[Hard Disk]	
Second Boot Device	[CDROM]	
Third Boot Device	[USB-HDD]	
Password Check	[Setup]	
HDD S.M.A.R.T. Capability	[Disabled]	
Away Mode	[Disabled]	
Backup BIOS Image to HDD	[Disabled]	
Init Display First	[PCI Slot]	

↑↓←→: Move	Enter: Select	+/-/PU/PD: Value	F10: Save	ESC: Exit	F1: General Help
F5: Previous Values		F6: Fail-Safe Defaults		F7: Optimized Defaults	

☞ IGX Configuration

このサブメニューで行った設定は、MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)メインメニューの同じ項目で行った設定に同期します。

☞ AMD C1E Support

システムが一次停止状態のとき、C1E CPU省電力機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、システムのホールド状態の間消費電力は低下します。

▶ Auto ハードウェアC1EをサポートするCPUが取り付けられている場合、BIOSによりハードウェアC1E機能は自動的に有効になります。取り付けられていない間、C1E機能は無効になります。 (既定値)

▶ Enabled ハードウェアC1EをサポートするCPUが取り付けられている場合、BIOSによりハードウェアC1E機能は自動的に有効になります。取り付けられていない場合、BIOSによりソフトウェアC1E機能が有効になります。

▶ Disabled C1E機能を無効にします。

☞ Virtualization

Virtualization では、プラットフォームが独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行します。仮想化では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。 (既定値: Disabled)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

- ☞ **AMD K8 Cool&Quiet control**
 - ▶ Auto AMD Cool'n'Quiet ドライブでは CPU と VID をダイナミックに調整し、コンピュータからの熱出力とその消費電力を減少します。(既定値) この機能を無効にします。
 - ▶ Disabled
- ☞ **CPU Unlock^(注)**
隠れCPUをアンロックにするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)
- ☞ **CPU core Control**
CPU Core 1/2/3/4/5 のどちらを手動で有効または無効に設定するか、決定できます。
 - ▶ Auto BIOSですべてのCPUコアを有効にします(使用できるコア数は使用されるCPUによって異なります)。(既定値)
 - ▶ Manual CPU Core 1/2/3/4/5を個別で有効または無効に設定できます。
- ☞ **CPU core 0**
この設定は固定です。CPU Core 0は常に有効にされています。
- ☞ **CPU core 1, 2/3/4/5^(注)**
CPU Core 1/2/3/4/5の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- ☞ **Hard Disk Boot Priority**
取り付けられたハードドライブからオペレーティングシステムをロードする順序が指定されます。上または下矢印キーを使用してハードドライブを選択し、次にプラスキー <+> (または <PageUp>) またはマイナスキー <-> (または <PageDown>) を押しリストの上または下に移動します。このメニューを終了するには、<Esc>を押します。
- ☞ **EFI CD/DVD Boot Option**
2.2 TB以上の容量のハードドライブにオペレーティングシステムをインストールする場合、このアイテムをEFIに設定します。インストールするオペレーティングシステムがWindows 7 64-bit and Windows Server 2003 64ビットなどの、GPT/パーティションからの起動をサポートしていることを確認してください。**Auto**では、BIOSが取り付けるハードドライブに従ってこの設定を自動的に構成します。(既定値: Auto)
- ☞ **First/Second/Third Boot Device**
使用可能なデバイスから起動順序を指定します。上または下矢印キーを使用してデバイスを選択し、<Enter> を押し受け入れます。オプション: LS12, Hard Disk, CDROM, ZIP, USB-FDD, USB-ZIP, USB-CDROM, USB-HDD, Legacy LAN, Disabled です。
- ☞ **Password Check**
パスワードは、システムが起動するたびに必要か、または BIOS セットアップに入るときのみ必要かを指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Set Supervisor/ User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。
 - ▶ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。(既定値)
 - ▶ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。
- ☞ **HDD S.M.A.R.T. Capability**
ハードドライブの S.M.A.R.T. (セルフモニタリング・アナリシス・アンド・リポーティング・テクノロジー) 機能の有効/無効を切り換えます。この機能により、システムはハードドライブの読み込み/書き込みエラーを報告し、サードパーティのハードウェアモニタユーティリティがインストールされているとき、警告を発行することができます。(既定値: Disabled)
- ☞ **Away Mode**
Windows XP Media Center オペレーティングシステムで Away Mode の有効/無効を切り替えます。Away Mode により、システムはオフになっているように見える低出力モードで入っている間に、実行されていないタスクをサイレントに実行します。(既定値: Disabled)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

 Backup BIOS Image to HDD

BIOS 画像ファイルをハードドライブにコピーします。システム BIOS が破損した場合、この画像ファイルから回復されます。(既定値: Disabled)

Init Display First

取り付けたPCIグラフィックスカード、PCI Expressグラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。

- ▶ PCI Slot 最初のディスプレイとして PCI グラフィックスカードを設定します。
(既定値)
- ▶ OnChipVGA 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
- ▶ PEG 最初のディスプレイとして、PCIEX16スロットでPCI Expressグラフィックスカードを設定します。

2-6 Integrated Peripherals

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software			
Integrated Peripherals			
OnChip SATA Controller	[Enabled]	Item Help	
OnChip SATA Type	[Native IDE]	Menu Level ▶	
x OnChip SATA Port4/5 Type	IDE		
x OnChip SATA Port as ESP	Press Enter		
▶ SMART LAN	[Press Enter]		
Onboard LAN Function	[Enabled]		
Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]		
Onboard Audio Function	[Enabled]		
USB Controllers	[Enabled]		
USB Legacy Function	[Enabled]		
USB Storage Function	[Enabled]		
Onboard Serial Port	[3F8/IRQ4]		
↑↓←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults			

☞ **OnChip SATA Controller**

統合された SATA コントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

 OnChip SATA Type (SATA2 0~SATA2 3 コネクタ)

統合された SATA2 0~SATA2 3 コントローラの動作モードを構成します。

- ▶ Native IDE SATA コントローラが Native IDE モードで動作します。(既定値)
ネイティブモードをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合、Native IDE モードを有効にします。
- ▶ RAID SATA コントローラに対して RAID を有効にします。
- ▶ AHCI SATA コントローラを AHCI モードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバが Native Command Queuing およびホットプラグなどのアドバンスドシリアル ATA 機能を有効にできるインターフェイス仕様です。

 OnChip SATA Port4/5 Type (SATA2 4/SATA2 5 コネクタ)

OnChip SATA TypeがRAIDまたはAHCIに設定されているときのみ、このオプションを構成できます。統合されたSATA2_4/SATA2_5コネクタの動作モードを構成します。

- ▶ IDE SATAコントローラに対してRAIDを無効にし、SATAコントローラをPATAモードに構成します。(既定値)
- ▶ As SATA Type モードは、**OnChip SATA Type** 設定によって異なります。

☞ OnChip SATA Port as ESP

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software		
OnChip SATA Port as ESP		
Port0 as ESP	[Disabled]	Item Help
Port1 as ESP	[Disabled]	Menu Level ▶▶
Port2 as ESP	[Disabled]	
Port3 as ESP	[Disabled]	
x Port4 as ESP	Disabled	
x Port5 as ESP	Disabled	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

☞ Port0 as ESP/Port1 as ESP/Port2 as ESP/Port3 as ESP

OnChip SATA Type が AHCI に設定されているときのみ、このオプションを設定できます。**Enabled** では、接続されたSATAデバイスのホットプラグ検出をスピードアップします。(既定値: Disabled)

☞ Port4 as ESP/Port5 as ESP

OnChip SATA Type が AHCI に設定され **OnChip SATA Type Port4/5** が **as SATA Type** に設定されているときのみ、このオプションを設定できます。**Enabled** では、接続されたSATAデバイスのホットプラグ検出をスピードアップします。(既定値: Disabled)

☞ SMART LAN (LAN ケーブル診断機能)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software	
SMART LAN	
Start detecting at Port.....	Item Help
Part1-2 Status = Open / Length = 0m	Menu Level ▶▶
Part3-6 Status = Open / Length = 0m	
Part4-5 Status = Open / Length = 0m	
Part7-8 Status = Open / Length = 0m	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults	

このマザーボードは、付属の LAN ケーブルのステータスを検出するために設計されたケーブル診断機能を組み込んでいます。この機能は、配線問題を検出し、障害またはショートまでのおおよその距離を報告します。LAN ケーブルの診断については、以下の情報を参照してください:

☞ オンボードオーディオ機能

オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製アドインオーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。

☞ Onboard LAN Function

オンボード LAN 機能の有効/無効を切り換えます。(既定値: Enabled) オンボード LAN を使用する代わりにサードパーティ製のアドインネットワークカードを取り付ける場合、このアイテムを **Disabled** に設定します。

☞ Onboard LAN Boot ROM

オンボード LAN チップに統合された起動 ROM をアクティブにするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

➤ USB Controllers

統合された USB コントローラの有効/無効を切り換えます。(既定値: Enabled)
Disabled では、以下の USB 機能がすべてオフになります。

➤ USB Legacy Function

USB キーボードを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値: Enabled)

➤ USB Storage Function

POST の間 USB フラッシュドライブや USB ハードドライブを含め、USB ストレージデバイスを検出するかどうかを決定します。(既定値: Enabled)

➤ Onboard Serial Port

最初のシリアルポートの有効/無効を切り換え、そのベース I/O アドレスと対応する割り込みを指定します。オプション: Auto、3F8/IRQ4 (既定値)、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3、無効です。

2-7 Power Management Setup

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software		
Power Management Setup		
ACPI Suspend Type	[S3(STR)]	Item Help
Soft-Off by Power button	[Instant-off]	Menu Level ▶
USB Wake Up from S3	[Enabled]	
Modem Ring Resume	[Disabled]	
PME Event Wake Up	[Enabled]	
HPET Support (2)	[Enabled]	
Power On By Mouse	[Disabled]	
Power On By Keyboard	[Disabled]	
x KB Power ON Password	Enter	
AC Back Function	[Soft-Off]	
Power-On by Alarm	[Disabled]	
x Date (of Month)	Everyday	
x Resume Time (hh:mm:ss)	0 : 0 : 0	
ErP Support	[Disabled]	

↑↓←→: Move	Enter: Select	+/-/PU/PD: Value	F10: Save	ESC: Exit	F1: General Help
F5: Previous Values		F6: Fail-Safe Defaults		F7: Optimized Defaults	

➤ ACPI Suspend Type

システムがサスペンドに入るとき、ACPI スリープ状態を指定します。

- ▶▶ S1(POS) システムは、ACPI S1 (パワーオンサスペンド) スリープ状態に入ります。S1 スリープ状態で、システムはサスペンド状態に入っていると表示され、低出力モードに留まります。システムは、いつでも復元できます。
- ▶▶ S3(STR) システムは、ACPI S3 (RAM にサスペンド) スリープ状態に入ります。(既定値)S3 スリープ状態で、システムはオフとして表示され、S1 状態の場合より電力を消費しません。呼び起こしデバイスまたはイベントにより信号を送られると、システムは停止したときの状態に戻ります。

➤ Soft-Off by Power button

パワーボタンを使用して、MS-DOS モードでコンピュータをオフにする方法を設定します。

- ▶▶ Instant-Off パワーボタンを押すと、システムは直ちにオフになります。(既定値)
- ▶▶ Delay 4 Sec. パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

(注) Windows 7/Vista オペレーティングシステムでのみサポートします。

- ☞ **USB Wake Up from S3**
 USB デバイスからの呼び起こし信号により、ACPI S3 スリープ状態からシステムを呼び起こします。(既定値: Enabled)
- ☞ **Modem Ring Resume**
 呼び起こし機能をサポートするモデムからの呼び起こし信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起こします。(既定値: Disabled)
- ☞ **PME Event Wake Up**
 PCI または PCIe デバイスからの呼び起こし信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起こします。注: この機能を使用するには、+5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。(既定値: Enabled)
- ☞ **HPET Support** ^(注)
 Windows 7/Vista オペレーティングシステムに対して HPET (高精度イベントタイマー) の有効/無効を切り換えます。(既定値: Enabled)
- ☞ **Power On By Mouse**
 PS/2 キーボード呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。
 注: この機能を使用するには、+5VSB リードで 1A 以上を提供する ATX 電源装置が必要です。

 - ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - ▶ Double Click PS/2 マウスの左ボタンをダブルクリックしてシステムをオンにします。
- ☞ **Power On By Keyboard**
 PS/2 キーボード呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。
 注: +5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。

 - ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - ▶ Password 1~5 文字でシステムをオンスするためのパスワードを設定します。
 - ▶ Any KEY キーボードのどれかのキーを押してシステムをオンにします。
 - ▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押すと、システムがオンになります。
- ☞ **KB Power ON Password**
Power On by Keyboard が **Password** に設定されているとき、パスワードを設定します。このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。
 注: パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。
- ☞ **AC Back Function**
 AC 電力が失われたときから電力を回復した後のシステムの状態を決定します。

 - ▶ Soft-Off AC 電力を回復した時点でも、システムはオフになっています。(既定値)
 - ▶ Full-On AC 電力を回復した時点で、システムはオンになります。
 - ▶ Memory AC 電力が回復した時点で、システムは電力を失う直前の状態に戻ります。
- ☞ **Power-On by Alarm**
 希望の時間に、システムの電源をオンにするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)
 有効になっている場合、日付と時刻を以下のように設定してください:

 - ▶ Date (of Month): 毎日または指定された日のそれぞれの時刻に、システムのパワーをオンにします。
 - ▶ Resume Time (hh: mm: ss): システムのパワーを自動的にオンにする時刻を設定します。

注: この機能を使用しているとき、不適切にオペレーティングシステムから遮断したり AC 電源からコードを抜かないでください。そうでないと、設定は有効になりません。

(注) Windows 7/Vista オペレーティングシステムでのみサポートします。

ErP Support

S5(シャットダウン)状態の場合、システムで使用する電力を1W未満に抑えるかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

注: この項目が**Enabled**に設定されているとき、次の機能は使用できなくなります:

PMEイベント呼び起こし、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、呼び起こしLAN。

2-8 PnP/PCI Configurations

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software					
PnP/PCI Configurations					
PCI1 IRQ Assignment				[Auto]	
				Item Help	
				Menu Level ▶	
↑↓←→: Move	Enter: Select	+/-/PU/PD: Value	F10: Save	ESC: Exit	F1: General Help
F5: Previous Values		F6: Fail-Safe Defaults		F7: Optimized Defaults	

PCI1 IRQ Assignment

▶ Auto

BIOS は IRQ を最初の PCI スロットに自動的に割り当てます。(既定値)

▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15

IRQ、4、5、7、9、10、11、12、14、15を最初の PCI スロットに割り当てます。

2-9 PC Health Status

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2011 Award Software					
PC Health Status					
Hardware Thermal Control				[Enabled]	
Reset Case Open Status				[Disabled]	
Case Opened				No	
Vcore				1.264V	
DDR3 1.5V				1.584V	
+3.3V				3.312V	
+12V				12.229V	
Current System Temperature				36°C	
Current CPU Temperature				48°C	
Current CPU FAN Speed				1973 RPM	
Current SYSTEM FAN Speed				0 RPM	
CPU Warning Temperature				[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning				[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning				[Disabled]	
CPU Smart FAN Control				[Enabled]	
CPU Smart FAN Mode				[Auto]	
				Item Help	
				Menu Level ▶	
↑↓←→: Move	Enter: Select	+/-/PU/PD: Value	F10: Save	ESC: Exit	F1: General Help
F5: Previous Values		F6: Fail-Safe Defaults		F7: Optimized Defaults	

Hardware Thermal Control

CPU 過熱保護機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU が過熱すると、CPU コア電圧と速度が下がります。(既定値: Enabled)

Reset Case Open Status

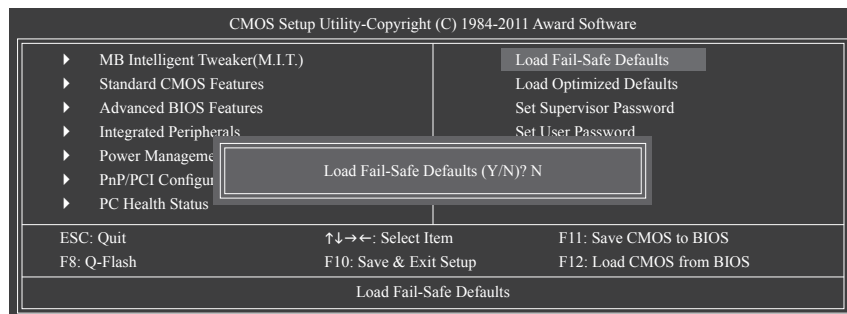
前のシャーンシ侵入ステータスの記録を保存または消去します。**Enabled** では前のシャーンシ侵入ステータスのレコードを消去し、**Case Opened** フィールドが次に起動するとき "No" を表示します。(既定値: Disabled)

Case Opened

マザーボード CI ヘッダに接続されたシャーンシ侵入検出デバイスの検出ステータスを表示します。システムシャーンシカバーを取り外すと、このフィールドは "Yes" を表示し、カバーを取り外さない場合、"No" を表示します。シャーンシ侵入ステータスのレコードを消去するには、**Reset Case Open Status**を**Enabled**に設定し、設定を CMOS に保存し、システムを再起動します。

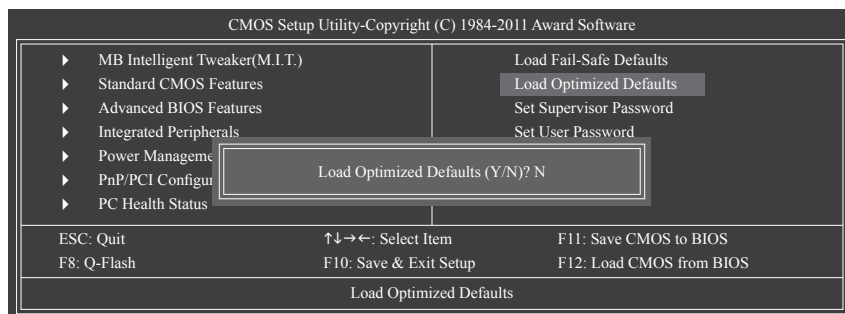
- 🔊 **Current Voltage(V) Vcore/DDR3 1.5V/+3.3V/+12V**
現在のシステム電圧を表示します。
- 🔊 **Current System/CPU Temperature**
現在のシステム/CPU 温度を表示します。
- 🔊 **Current CPU/SYSTEM FAN Speed (RPM)**
現在のCPU/システムファンの速度を表示します。
- 🔊 **CPU Warning Temperature**
CPU 温度の警告しきい値を設定します。CPU 温度がしきい値を超えると、BIOS は警告音を出します。オプションは: Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。
- 🔊 **CPU/SYSTEM FAN Fail Warning**
CPU/システムファンが接続されているか失敗したかで、システムは警告を出します。これが発生したときは、ファンの状態またはファン接続をチェックしてください。(既定値: Disabled)
- 🔊 **CPU Smart FAN Control**
CPU ファン速度のコントロールの有効/無効を切り替えます。Enabled にすると、CPU ファン は CPU 温度によって異なる速度で作動できます。システム要件に基づき、EasyTune でファン速度を調整できます。無効にすると、CPU ファンは全速で作動します。(既定値: Enabled)
- 🔊 **CPU Smart FAN Mode**
CPU ファン速度の制御方法を指定します。CPU Smart FAN Control が Enabled に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。
 - ▶ Auto BIOS は取り付けられた CPU ファンのタイプを自動的に検出し、最適の CPU ファン制御モードを設定します。(既定値)
 - ▶ PWM 4 ピン CPU ファンに対して PWM モードを設定します。

2-10 Load Fail-Safe Defaults



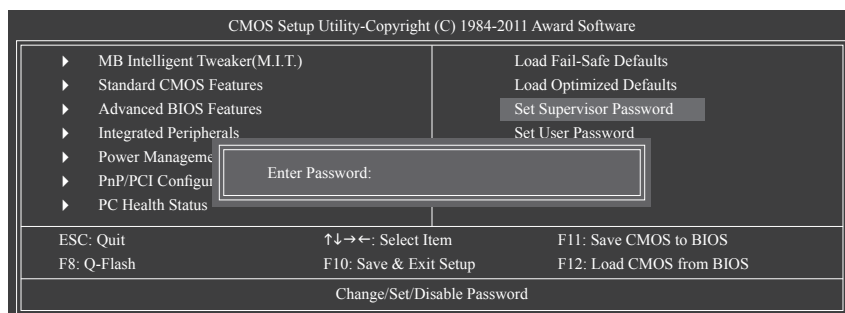
このアイテムで <Enter> を押し <Y> キーを押すと、もっとも安全な BIOS 既定値設定がロードされます。システムが不安定になった場合、マザーボードのもっとも安全でもっとも安定した BIOS 設定である、フェールセーフ既定値をロードしてください。

2-11 Load Optimized Defaults



このアイテムで <Enter> を押し <Y> キーを押すと、最適な BIOS 既定値設定がロードされます。BIOS 既定値設定により、システムは最適の状態で作動します。BIOS を更新した後、または CMOS 値を消去した後、最適化既定値を常にロードします。

2-12 Set Supervisor/User Password



このアイテムで <Enter> を押して 8 文字以内でパスワードを入力し、<Enter> を押します。パスワードを確認するように求められます。パスワードを再入力し、<Enter> を押します。BIOS セットアッププログラムでは、次の 2 種類のパスワード設定ができます：

Supervisor Password

システムパスワードが設定され、**Advanced BIOS Features** で **Password Check** アイテムが **Setup** に設定されているとき、BIOS セットアップに入り、BIOS を変更するには、管理者パスワードを入力する必要があります。

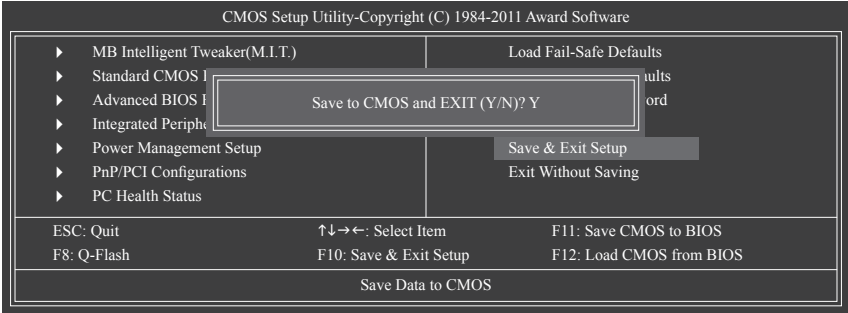
Password Check アイテムが **System** に設定されているとき、システム起動時および BIOS セットアップを入力するには、管理者パスワード (または、ユーザーパスワード) を入力する必要があります。

User Password

Password Check アイテムが **System** に設定されているとき、システム起動時に管理者パスワード (または、ユーザーパスワード) を入力してシステムの起動を続行する必要があります。BIOS セットアップで、BIOS 設定を変更したい場合、管理者パスワードを入力する必要があります。ユーザーパスワードは、BIOS 設定を表示するだけで変更は行いません。

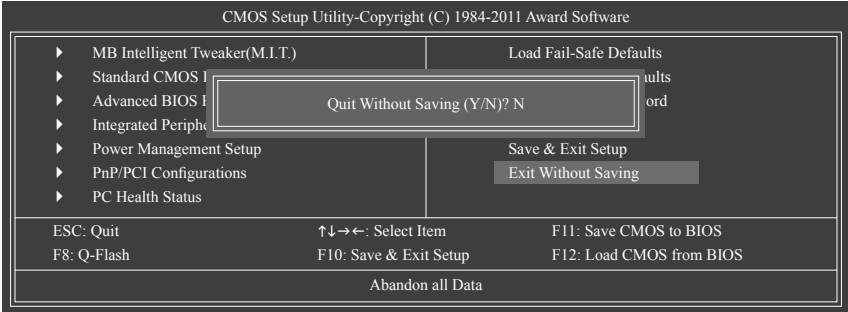
パスワードを消去するには、パスワードアイテムで <Enter> を押しパスワードを要求されたとき、<Enter> を再び押します。「PASSWORD DISABLED」というメッセージが表示され、パスワードがキャンセルされたことを示します。

2-13 Save & Exit Setup



このアイテムで <Enter> を押し、<Y> キーを押します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。<N> または <Esc> を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

2-14 Exit Without Saving



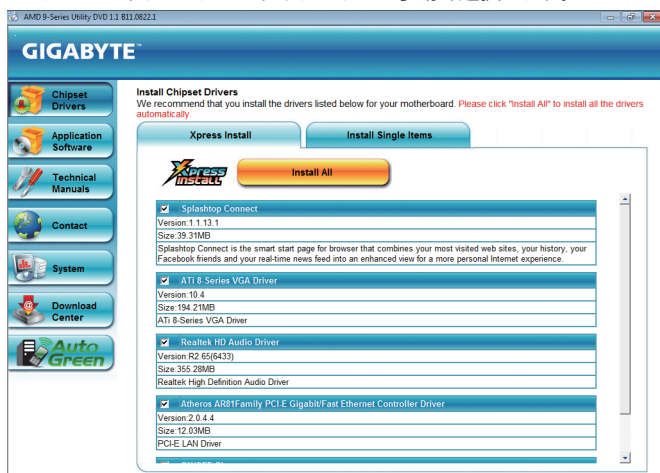
このアイテムで <Enter> を押し、<Y> キーを押します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。<N> または <Esc> を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

第3章 ドライバのインストール



- ・ ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。
- ・ オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードドライバを光学のドライブに挿入します。ドライバの自動実行スクリーンは、以下のスクリーンショットで示されたように、自動的に表示されます。(ドライバの自動実行スクリーンが自動的に表示されない場合、マイコンピュータに移動し、光ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

ドライバディスクを挿入すると、「Xpress Install」がシステムを自動的にインストールし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。**Install All** ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が推奨されたすべてのドライバをインストールします。または、**Install Single Items** をインストールしてインストールするドライバを手動で選択します。



第4章 固有の機能

SATAハードドライブを構成する

始める前に

準備してください：

- ・ 少なくとも2つのSATAハードドライブ（最適のパフォーマンスを確実に得るために、同じモデルと容量のハードドライブを2台使用することをお勧めします）。RAIDを作成する必要がない場合、1台のハードドライブのみを準備してください。
- ・ 空のフォーマット済みフロッピーディスク。
- ・ Windows Vista/XPセットアップディスク。
- ・ マザーボードドライバディスク

オンボード SATA コントローラを設定する

A. コンピュータにSATAハードドライブを取り付ける

SATA信号ケーブルの一方の端をSATAハードドライブの背面に、もう一方の端をマザーボードの使用可能なSATAポートに接続します。次に電源装置から電源コネクタをハードドライブに接続します。

B. BIOSセットアップでSATAコントローラモードを設定する

システムBIOSセットアップで、現在SATAコントローラモードが設定されていることを確認します。BIOSセットアップメニューの場合、第2章「BIOSセットアップ」、「統合周辺機器」を参照してください。

ステップ:

1. コンピュータの電源をオンにし、POST (パワーオンセルフテスト) 中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。**OnChip SATA Controller**が**Integrated Peripherals**下で有効になっていることを確認します。SATA2_0/1/2/3コネクタに対してRAIDを有効にするには、**OnChip SATA Type**を**RAID**に設定します。SATA2_4/5コネクタに対してRAIDを有効にするには、**OnChip SATA Type**を**RAID**に設定し、**OnChip SATA Port4/5 Type**を**As SATA Type**に設定します。
2. 変更を保存し、BIOSセットアップを終了します。



このセクションで説明されたBIOSセットアップメニューは、マザーボードの設定と異なることがあります。表示される実際のBIOSセットアップメニューオプションは、お使いのマザーボードとBIOSバージョンによって異なります。

C. RAID BIOSでRAIDセットを構成する

RAID BIOSセットアップユーティリティに入ってRAIDアレイを構成します。POSTメモリテストが開始された後でオペレーティングシステムがブートを開始する前に、「<Ctrl> + <F>」を押してRAID BIOSセットアップユーティリティに入ります。<Ctrl> + <F>を押してRAID BIOSセットアップユーティリティに入ります。新しいアレイを作成するには、<2>を押して **LD View/LD Define Menu**ウィンドウに入ります。アレイを作成するには、<Ctrl>+<C>を押して**LD Define Menu**に入ります。詳細な設定を行うには、**LD Define Menu**で、上または下矢印キーを使用してアイテムに移動します。次の手順では、例としてRAID 0を作成します。

ステップ:

1. **RAID Mode**セクション下で、<SPACE>キーを押して**RAID 0**を選択します。
2. **Stripe Block**サイズを設定します。既定値は**64 KB**です。
3. **Drives Assignments** セクション下で、上または下矢印キーを押してドライブをハイライトします
4. <SPACE>キーまたは<Y>を押して**Assignment**オプションを **Y** に変更します。このアクションで、ディスクアレイにドライブが追加されます。**Drv**セクションでは、割り当てられたディスク数が表示されます。
5. <Ctrl>+<Y>キーを押して情報を保存します。図1のメッセージが表示されます。<Ctrl>+<Y>を押して矢印名を入力します。矢印名を入力しない場合、既定値の矢印名が使用されます。

Please press Ctrl-Y key to input the LD Name
or press any key to exit.
If you do not input any LD name, the default
LD name will be used.

図 1

6. 次のメッセージメッセージが表示されたら、<Ctrl>+<Y>を押してMBRを消去するか、他のキーを押してこのオプションを無視します。

Fast Initialization Option has been selected
It will erase the MBR data of the disk.
<Press Ctrl-Y Key if you are sure to erase it>
<Press any other key to ignore this option>

図 2

7. 図8のメッセージが表示されます。<Ctrl>+<Y>を押してRAIDアレイの容量を設定するか、他のキーを押してアレイをその最大容量に設定します。

Press Ctrl-Y to Modify Array Capacity or press any
other key to use maximum capacity...

図 3

8. 作成が完了すると、画面が**Define LD Menu**に戻り、新たに作成されたアレイが表示されます。
9. RAID BIOSユーティリティを終了する場合、<Esc>を押して**Main Menu**に戻り <Esc> を再び押します。

SATA RAIDドライバディスクを作成する

マザーボードのドライバディスクからフロッピーディスク (Windows XPの場合) に、またはUSBフラッシュドライブ (Windows 7/Vistaの場合) にSATAコントローラ用ドライバをコピーします。例えば、Windows XP 32ビットオペレーティングシステム用にRAIDドライバをコピーするには、次のディレクトリからフロッピーディスクにドライバをコピーします：`!BootDrv\SBxxx\86`。(Windows 64-bitをインストールするには、`x64`フォルダにファイルをコピーします。)

SATA RAIDドライバとオペレーティングシステムをインストールする

A. Windows XPのインストール

システムを再起動してWindows XPセットアップディスクから起動し、「サードパーティ製SCSIまたはRAIDドライバをインストールする必要がある場合F6を押してください」というメッセージが表示されたら直ちに<F6>を押します。SATAコントローラドライバを含むフロッピーディスクを挿入します。オンスクリーンの指示に従って表示された2つのドライバをインストールします。完了したら、Windows XPのインストールを続けます。

B. Windows 7/Vistaのインストール

Windows Vistaセットアップディスクからブートするシステムを再起動し、標準のOSインストールステップを実行します。ドライバのロードを選択します。ドライバを含むフロッピーディスク/USBフラッシュドライブ (SATA光学ドライブを使用するユーザー) またはマザーボードドライバディスクを挿入します。Windows 32-bitの場合、`!BootDrv\SBxxxW7\RAID\W7` に移動してドライバをロードしOSのインストールを続けます。Windows 64-bitの場合、`!BootDrv\SBxxxW7\RAID\W764A` に移動してドライバをロードしOSのインストールを続けます。

規制声明

規制に関する注意

本文書は当社の書面による事前の許可なしにはコピーすることができず、そのコンテンツはサードパーティに開示したり、不正目的で使用することはできません。違反すると起訴されることになります。当社は、ここに含まれる情報が印刷時点ですべての点で正確であったと信じます。しかしながら、GIGABYTEはこのテキストの誤りや脱落に責任を持ちません。また、本文書の情報は通知なしに変更されることがありますが、変更することをGIGABYTEの約束と解釈すべきではありません。

環境を守ることに對する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS (電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE (廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にあるいは梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃機器を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- リサイクル、「耐用年数の過ぎた」製品の犀利超生命の「終わり」製品についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに一覧した顧客ケアにお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

[illegible]

[illegible]



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス: No.6, Bao Chiang Road, Hsin-Tien Dist., New Taipei City 231, Taiwan

TEL: +886-2-8912-4000, FAX: +886-2-8912-4003

技術および非技術。サポート (販売/マーケティング): <http://ggts.gigabyte.com.tw>

WEBアドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>

GIGABYTE web サイトにアクセスし、web サイトの右下の言語リストで言語を選択してください。

● GIGABYTE グローバルサービスシステム

GIGABYTE **GTS** Global Technical Service

Welcome to GIGABYTE Service system. If you want to submit new question or check our responses, please enter your E-Mail address and press the button to log in.

✉ Your Email:

繁體中文	Deutsch	简体中文
Français	Polski	English

技術的または技術的でない (販売/マーケティング) 質問を送信するには:

<http://ggts.gigabyte.com.tw>

にリンクしてから、言語を選択し、システムに入ります。